2017年　スリンギ･ヒマール　第2次偵察

報　告　書

スリンギヒマール南峰(南面)　2017年10月3日撮影

信　州　大　学　学　士　山　岳　会

目的　シャクパ氷河に到達して、チャマール双耳峰東面の全貌を明らかにする。

期間　2017 年 9 月 22(26)日から 11 月 4 日まで

隊員　隊長　渡部光則　　渉外･医療担当

中田 茂　　会計･食糧担当

山崎 克則　　装備･記録担当

ネパール人スタッフ

ガイド　ダワ・ラマ氏、コック　クリシュナ氏、ポータ　10 名

********** 総括 **********

スリンギ･ヒマール　瞥見　その２　－　遠い頂

隊長　渡部 光則

満を持して臨んだ　この度の偵察であったが、スリンギ･ヒマール 主峰 チャマールの双耳峰に相見えることなく、空しくカトマンズに引き上げざるを得なかった。

昨春 到達したサルプコーラ右岸のパンチェン･カルカに 10 月 6 日ベースキャンプを設営し、上流のシャクパ氷河(地図の表記であるが、シャクパはチベット語で料理の「シチュー」の意であり、ガイドのダワ･ラマ･シェルパは、高地の香木「シュクパ」が正しいのではないかと言う。) へのルートを探したが、周囲を岩壁と深く切れ込んだガリー群に囲まれており、容易く進むことは出来なかった。 少なくとも、数百メートル程度の固定ロープの設置が必要と思われる。ドッコを背負った通常のポータによる荷揚げでベース入りを計るのは難しい地形と判断される。

パンチェン･カルカに移動用ベースを置き、10 名程度のシェルパ族等のローカル ポータによるシャクパ氷河ベースキャンプへの荷揚げをするのが良策かとも思われる。

連日、午前 11 時過ぎから深い霧に閉ざされ 視界がきかず、午後遅くから夜間は雨の天候が続いており、これ以上のルート探索を諦め、シャール･コーラ上流、ムーゴンパを経て、タプ・ラ(パンジャン)方向 最奥のチェギャ・カルカ(地図ではチェキャ)に転進した。

10 月 12 日 チェギャ・カルカにベースキャンプを設営し、シャクパ氷河 左岸 チャマリ･ヒマールのタブサル峰 6,065m 北西の 5,429m の鞍部越えによるシャクパ氷河入りの方法を探った。この稜線の北面の谷ドマケン･ルンバの左岸のカルカ道を辿り、チュー･カ･ニのカルカに達して、鞍部へのルートを探った。ゆるい堆積斜面を想像していたが、実際は、標高差 200m 程度の粘板岩の岩壁の帯であり、折からの降雪で、雪壁となっており、鞍部に達するにはザイルを伴う登攀が必要であった。

以上の事から、残念ながら、チャマール峰はあまりに遠く東面の姿を仰ぐことは適わなかった。下山途上、シャール･コーラ下流から、又、ブリガンダキに出て、フィリムからジャガットに下る途中、仰ぎ見るチャマール南峰は、南壁を堂々と聳だたせて見事であった。

ガイドのダワ･ラマ･シェルパから、以下の提案がある。ツムのツムリン地区の住民が 5 月末から 6 月にサルプコーラのパンチェン･カルカを経て、シャクパ氷河に達し、国境稜線を越境して、チベット側で密かに、ヤクチャンパ(冬虫夏草)採りに出かける由。ついては、来年、それに同行して、シャクパ氷河に達するルートを確保したい。

********** 行動記録 **********

山崎記ス。

9/22 先に渡部氏にカトマンズ入りしてもらい、自･他隊員の装備を調達する。(ダサイン前)
9/25 山崎、松本発 セントレア東横イン(泊)
9/26 山崎はセントレア空港発、米倉氏･中田氏は成田発でインチョン空港にて合流し、ネパールへ。
カトマンズにて渡部氏と合流。 送迎車で宿泊先のマドウバン G/H 着
9/27 晴れ後、高曇り。
ダサイン(お祭り)の為か、朝の 5 時頃から子供達の太鼓･鉦の音の大音響で目が覚める。
コスモトレックへ行き、ガイド、コックと挨拶する。
ガイド：ダワ・ラマ氏 コック：クリシュナ氏
ポータ：10 名 ダサインの為､カトマンズでは人員が集まらず､全員ポカラから呼ぶ。
個人装備(ピッケル､登山靴､寝袋等)・団体装備(ガスボンベ等)の購入をする。
夕食は今夜も隣接するレストラン｢ブルーベリー｣で。安くて美味しい。
その後、安眠出来ると思いきや、通りの向かいの店で、大音響でロック音楽を流しており、寝付けず、おかげで時差(-3:15)が解消する。(これに加え、早朝 6 時からの吼え猿のような奇声を発するエクササイズ教室も…。これは、山行後も同じ。)
9/28 曇り。
マップ･センタに 1/5 万の地形図を購入しに行くが、ダサインの為休み。しかたなく、通常市販の 1/8.5 万の地図を購入する。
午後、G/H にツル･バハドゥール･タマン氏*1 が来訪。2､3 時間 歓談する。
(5 階がテーブル･イスの有るテラスとなっており、非常に快適。)

*1: 1996 年ラトナチュリ遠征の折にお世話になった高所シェルパ。

夕食は近所で購入したサンドイッチ(200 円前後)、つまみ、缶ビール＋日本酒で、明日の早朝に出立される米倉さんの壮行会!?。
9/29 曇り 午後 5 時頃より夕立
10:00 コスモトレックにて装備の最終点検を行う。
11:30 コスモトレック市内店にて、大津氏とお会いする。
山岳保険証の写しや山行中不要な金銭を預かって頂く。
G/H にデポする衣類を洗濯する。
夕食は｢ブルーベリー｣で済ますがダサインの為、メニューはシュリンク版。

********** 山行開始 初日 **********

9/30 バスにて、｢カトマンズからソティ･コーラまで。｣
低い雲の曇り。気温は 17℃位。
6;25 G/H に不要な荷物をデポして、タクシーにてコスモトレックまで行く。
6:35~7:00 コスモトレックにて(4 駆の)貸切バスに荷物を載せて出発。ダサインの為か、いつも混む環状道路も空いており、スムースに抜ける。
7:40 (標高 1､450m 位) 舗装道路からダート道となる。
8:00~8:20 トイレ休憩。その先で通行料を払う。
9:00~9:15 トリズリ･カンダキにて、朝食としてバナナを食べる。
この先、酷い悪路となり、座っていても手すりに掴まったままとなる。
10:45~11:45 カパラパー(N27゜56'12.38 E84゜51'31.45)にて昼食(ダルバート)。
(※唯一 GPS で位置を同定できた地点。以後、試みるも不可。)
この先も悪路が続く。
12:40 幾つかの峠を越えて、漸くアンク･コーラに懸かる橋を越える。
13:10~14:40 アルガハットの対岸のサランタールにて、バスの乗り換え。
(郡の境界を跨いだバスの乗り換えが出来ない由。) ものすごく蒸し暑い。
15:50 ソティ･コーラ着
到着の 10 分前から、夕立となり、慌しく荷物をロッジに取り入れる。

********** 2 日目 **********

10/1 「ソティ･コーラ(730m)からマチャ･コーラ(930m)まで。」

水平距離　9km　標高差 +200m　行動時間　6 時間 40 分

6:00 起床　6:30 朝食　7:35 出発

浄水器を今回は、初めて使用するが不調。しばらくすると若干回復したので、安堵する。

(装備点検時に試用すべきであった。)

朝食のご飯の半分を用意してあったタッパに入れ、昼のお弁当とする。(海苔、ふりかけ)

出発時から既に暑い。天気は晴れ。

8:30~8:40　一本。

9:40　リチェット･コーラ出会い通過。この間、強引に作った車道となっており、登り下りが多くゴロゴロ道で歩き難い。

10:05~10:40　ラプベシにて昼食。浄水する。

11:40~11:50 一本　ひたすら暑い。

12:15~12:30 一本　茶屋にて紅茶。

13:15~13:25 一本　カニベシ付近の(ネパールの上高地と呼ばれる)砂の河原の茶屋で紅茶。

メチャクチャ暑い。

14:10　マチャ･コーラ着。

ガイド、ポータが遅れており、宿泊ロッジは判らず、近くの茶屋で待機。

14:30 頃より、雨が降り出す。

15:10　ガイド、ポータが漸く到着。

(ガイド、ポータは途中の茶屋で、ダルバートを頼んでから作ってもらい、食べる為に

1 時間以上のタイムラグが生じる。)

この頃より雨が強まり、夜半には豪雨となる。

********** 3 日目 **********

10/2 「マチャ･コーラ(930m)からジャガット(1,342m)まで。」

水平距離　15km　標高差 +412m　行動時間　9 時間 50 分

6:30 出発　晴れ

弁当が、ご飯+(海苔､ふりかけ)だとパサパサして食べづらいので、朝食を多目の炒飯にしてもらい半分を弁当とする。(すこぶる良い。以後､昼飯は炒飯とする。)

7:30~7:35 コーラベシの橋の手前で一本。

7:40　コーラベシの橋を通過。

8:50~8:55　河原で一本。

9:30　深い谷にも陽が差込み暑くなる。

9:35~10:00　タトパニ(990m)にて　お茶。

11:00~12:00　ドバン(1,070m)にて　昼食。

12:55~13:10 一本

14:20~14:25 ヤル･コーラ手前(1,265m)にて　一本。

曇りとなり、漸くやや涼しくなる。

15:30~15:45　ヤル･コーラ出会いの茶屋でお茶。

二人のポリスが｢ガイドは?｣と話しかけてくる。

渡部隊長が昔、ポリスアカデミーの方とジョイントして登った話等をする。

この頃より小雨となる。

この先、左岸に川床から高さ 5m 程の処に鉄の立派な桟橋が続く。昨年春は工事中で河原を歩いたとのこと。

(※　山崎のザック内で｢ヒルノック｣という液体の駆虫剤が大量に液漏れし、山崎の手が 2 日程爛れ、目は一週間以上痛んだ。この手の薬品は十分に注意して携行する必要がある。)

16:20　ジャガット 到着。　到着後、直ぐに雨足が強くなる。

今日もガイド、ポータが遅れて到着し、宿泊ロッジも判らずじまい。

渡部隊長が、明日からは、ガイド(又はコック)は先に到着しているように指示。

今日も夜半より雨が強くなる。

********** 4 日目 **********

10/3 「ジャガット(1342m)」からロクパ(2,240m)まで。」

水平距離　10km　標高差 +898m　行動時間　7 時間 15 分

7:00 出発　晴れ

8:15~8:20 チャマール峰が見える。写真休憩。

8:55~9:05 一本。

9:50~10:00 フィリムにてお茶。

11:05~11:30 (ニュー)エクレバッティにて昼食。　浄水。この頃より曇る。

12:35~12:45 マナスル街道との分岐点にて一本。

13:30~13:40　一本

14:15 ロクパ到着。

今日は楽勝。ガイドが靴擦、ポータが足の筋肉痛を訴え、絆創膏等を支給する。

********** 5 日目 **********

10/4 「ロクパ(2,240m)からツムリン(2,385m)まで。」

水平距離　9km　標高差 +145m　行動時間　4 時間 45 分

7:00 出発　晴れ

7:35~7:40 サリー･コーラの橋で一本。

8:35~8:45 一本。

9:00 対岸にウディル･コーラが見える。通過。

9:25　3 日前の豪雨で崩落したガレ場を慎重にトラバースする。(10m 位の巾)。

9:30~9:40 一本。

10:10~10:20 一本。

10:55~11:05 シャール･コーラに架かる橋で 一本。

11:45　ツムリン到着。

ロッジから。

ロッジの前が広場になっており、(明日からの天幕生活に備え) 洗濯して干したり、酒を飲んだりでくつろぐ。今日は終日、晴れ。

ポーター一人が重い荷物を担いで、ツムリンを通り過ぎ 1 時間以上先まで行ってしまう。

********** 6 日目 **********

10/5 「ツムリン(2,385m) からシャルプ･カルカ(2,800m)まで。」

水平距離　7km　標高差 +415m　行動時間　5 時間 00 分

7:10 出発。　快晴。

8:10~8:20 ガネッシュ峰が見える。一本。

9:15~10:00 サルプ･コーラの吊り橋(渡らない)から右岸の細い道に入る。

ポータが行き過ぎないように、全員が集まるまで待つ。

10:45~10:50　一本。　これより先は赤布を所々付けながら進む。

11:45~11:50 涸沢にて一本。

途中、更に 2 本の涸沢を渡る。

12:10　シャルプ･カルカ 到着。

夫婦二人が住む背の低い石積みの小屋の前に幕営する。(２張。)

昨年は午前中だけ水の出る沢が、今年は上部に氷河が無いせいか涸れたまま。

ポータが下(サルプ･コーラ)まで水汲みに出る。

********** 7 日目 **********

10/6 「シャルプ･カルカ(2,800m) からパンチェン･カルカ(3,880m)まで。」

水平距離　3km　標高差 +1080m　行動時間　5 時間 00 分

6:50 ラーメンを食べて出発。　晴れ。

顔や手に防虫剤を塗り、手袋をする。　直ぐに急登となる。

7:40~7:45 水のある沢(2,885m)で一本。

急斜面の九十九折の道を注意して登る。

9:15~9:20 タルチョーがある処(3,200m)で、一本。

10:35~10:45 カールペ･カルカ付近の沢で、一本。

11:25~11:35　一本。

12:30 パンチェン･カルカ 到着　幕営。ここで、ポータ 4 名を返す。

幕営後すぐに霧となり、夕刻から夜の間は雨。

********** 8 日目 **********

10/7　休息日

朝食は焼きソバ。　午前中は晴れ。

午後になると霧となり、やがて雨で夜まで続く。よって、テントの中で過ごす。

********** 9 日目 **********

10/8　偵察

連日、11 時になると濃霧になり帰天出来なくなる恐れがあり、10 時前には帰る予定とする。

7:00 うどんを食べて出発。

上部にアイスフォールがあり、3 条のルンゼが流れている。

下段に手前の 2 条のルンゼを容易にトラバースできる処があるが、一番奥のルンゼが深くて不可。

一番手前のルンゼの右岸はゆるい草付きとなって容易に登れる。ここを登ると小さなコブの裏側に出る。(8:00~8:25) ここからのトラバースを試みるが不可。

コブの先はやや急な草付きとなっていて危険なのと、既にガスが上がり始めていたので、下山することにする。

9:00　帰天する。

11:00　濃霧となり、やがて雨となり夜まで続く。今日もテントで半沈。

夕刻の暗くなった頃、ツムリンから怪しい 2 人組がやってきて、近くに泊まる。

外に出しておいた荷物をテントにしまう。(密猟師らしい。)

この尾根を乗越す

幕営地　　この 2 条のルンゼは容易に渡渉出来る。

********** 10 日目 **********

10/9 「パンチェン･カルカ(3,880m)からリンジャン(2,520m)まで。」

水平距離　5km　標高差 -1,340m　行動時間　6 時間 00 分

天候が悪く、3,4 時間しか偵察できないので、これ以上の偵察は不能と判断。又、地形図からシャール･コーラの支流ドマケン･ルンバを遡行して最低鞍部に達すれば、チャマール峰の東面を覗える可能性があるので、これに希望を託すことにする。(タプ･ラ行きは中止。)

よって、下山することにする。

7:20 パンケーキを食べて出発。　晴れ。

8:20~8:30　一本。

9:00~9:10 タルチョーのある処で一本。

10:10~10:20　一本。

10:55~11:10　一本。

11:20~11:40　シャルﾌﾟ･カルカで 一本。

12:45~12:55　サルプ･コーラの吊り橋で 一本。

13:15 リンジャン 到着。バッティの広場に幕営。

ここは晴れであるが、サルプ･コーラの狭い谷のみに雲がびっしりと詰まっている。
渡部隊長は｢クラウディ･コーラ｣と命名する。
ここで、ロキシー作りを見学する。蒸留するのに 3 時間程要する。その間、中国からの密貿易品の西蔵ラサ･ビール(Rs200)を飲む。バッティの売店の品物は総て中国産。
※ パンチェン･カルカで消費するはずの食糧等が重い為、これを下ろす労賃として、2 人分の日当を余計に払う。また、この先不要と思われる物資をここにデポすることにする。

********** 11 日目 **********

10/10 「リンジャン(2,520m) からラマガオン(3,305m)まで。」
水平距離 7km 標高差 +785m 行動時間 5 時間 45 分
7:30 ラーメンを食べて出発。 快晴。
8:30~8:40 一本。
9:25~9:35 チャウリにて 一本。
10:40~10:55 チョクンパロ(3,030m)にて 一本。
今までの狭い谷が一気に広がり始める。
12:00~12:10 一本。
車道から細い街道に入るのが正解であったが、入り損ねて山沿いの車道を行き､遠回りとなる｡(景観は良かった｡)

山沿いの車道からラマガオン。

13:15 ラマガオン 到着。
幕営の予定であったが、幕営地が無いとのことで、ロッジに素泊まりする。が、山崎の部屋のみ、窓にガラスが無く､ベッドは埃だらけの納屋のような部屋で､一晩中､マスクをして寝る｡(寝れなかった｡) 翌日、ラマガオンの外れに立派な幕営地があるのを見て、むっとする。

********** 12 日目 **********

10/11｢ラマガオン(3,305m) からムーゴンパ(3,705m)まで｡｣
水平距離 9km 標高差 +400m 行動時間 3 時間 45 分
7:20 チュラー(乳かゆ)を食べて出発。 快晴。
8:10 右岸通しの道から橋を渡って、左岸へ。
8:20~8:30 一本。
9:00~9:10 ペンジェチュン?(地図には penjechun、発音の判らない地名ばかり)の大きなチョルテン(仏塔)にて、一本。
ダワ氏に仏塔の中に何が奉ってあるのか尋ねると、宝くじが入っているとのこと。(外れ券??)
10:00~10:10 一本。
10:20~10:30 チュレで一本。
橋を渡り、再び右岸へ。ムー･ゴンパに近づくと、鬱陶しい車道となる。
12:05 ムー･ゴンパ 到着。 快適な幕営地(放牧地の中)で幕営。
但し､外国人は一人に付き Rs500.- 現地の人(ポータ)からも徴収しようとしたが、ダワ氏が断固拒否。
ムー･ゴンパ：何故か欧州人には人気で、ここを目指す多くのトレッカとすれ違う。
幕営地のやや上にあり､行ってみると鉄の柵の門、その奥にぼろぼろの古びたお寺があるだけ。
ベットだけで Rs500.-とるそうである。なお、近くにヘリポートがあった。

昨日､この先に道に明るいラマガオンのアベ氏にガイドをお願いしており。15 時頃、馬を引き連れてやってくる。
放牧地にはやせこけた子牛がおり、聞くと、飼えきれない子牛や老牛は放置されるそうである。
やがて、ユキヒョウの餌となる運命となるのか。
夜半から再び小雨となる。

********** 13 日目 **********

10/12｢ムーゴンパ(3,705m) からチェーギャ･カルカ(4,120m)まで｡｣
水平距離 7km 標高差 +415m 行動時間 5 時間 50 分
7:20 うどんを食べて出発。 快晴。
ひたすら車道を行く。
8:00 車道が崩壊し、10m 程ガレ場となり、注意して歩行。
8:05~8:10 一本。
8:30 この先は大崩落となり、道が途絶えている。ここにある吊り橋で対岸へ。
尾根状の台地の急登となる。
9:00~9:10 急登を終えた所がカルング。一本。

左岸の道を進み、3 本の枝沢を渡渉。
10:10~10:30 (3,950m 地点)　一本。
この先、谷が開けてくる。
11:10~11:20 チョシング氷河の出会い。一本。　この頃から、曇り。
12:10 チェーギャ･カルカ到着。
広々とした放牧地に幕営する。
18:00　雨となる。

********** 14 日目 **********

10/13 偵察Ⅰ。
6:00　昨日からの雨が残る。(テント内の温度 6℃)　パンケーキの朝食。
7:15　曇り空に朝陽が差してきたので、出発。
7:40　BC のある台地を少し登り、渡渉する。(流木の上に石を載せた橋がある。)
対岸に 2 段の台地があり、
7:55~8:00 2 段目の台地(4275m)で一本。
この先､左の大きなモレーン(ドマケン･ルンバが侵食)と右の小さなモレーンの間のゆるい尾根を登る。
途中、白く石化した大きなアンモナイトの化石が道端に転がっていた。持って帰れば高値になると思うが断念。
8:25~8:35 4.380m 地点。一本。この頃より曇りだす。(霧?)
9:00~9:20 4,400m 地点。尾根を登り、上部にキャンプ地候補(チューカーニ)が見える所まで行く。その先は雪壁になっている模様。天気が下り坂なので、下山する。
10:20　帰天する。
11:45 より再び雨、翌日の 4:00 まで続く。

********** 15 日目 **********

10/14 休息日。
8:10~8:50 暇なので、ドマケン･ルンバ全体を見ようと山崎は左岸の丘に登る。
ドマケン･ルンバやタプ･ラ(今回中止)の上部はガスに覆われていた。
BC では、12 時を過ぎても雲が湧かず、夜は初めて星座が判らない程の満天の空となる。

********** 16 日目 **********

10/15 偵察Ⅱ。
7:20　うどんを食べて出発。　快晴。
7:40~7:45　台地の下段で一本。
8:30~8:50　尾根の途中(4,345m)で一本。
9:30　キャンプ地候補のチューカーニ(4,430m)
BC 設営可能と判断。
10:00 まで、チューカーニが見渡せるようにガレ場を少し登り。写真撮影する。
11:30　帰天する。　ここまで快晴。
但し、夜半より雨。
ダワ氏より、燃料の灯油、食糧が無くなった旨を告げられる。

幕営地の丘から。左岸上の明瞭な尾根を行く。

チューカーニ。　良い幕営地になる。

チューカーニの少し上は鞍部状となっており、その先は雪壁となっている。

********** 17 日目 **********

10/16「チェーギャ･カルカ(4,120m)からムーゴンパ(3,705m)まで。」

水平距離　7km　標高差 -415m　行動時間　3 時間 40 分

6:30　霧雨。　ラーメンを食べてパッキング。

一時、霰となりテントの廻りが白くなる。

8:00　霧雨の中を出発する。

軽い荷物の下りで、ポータはぐんぐん先に行く。

9:00~9:05 3,995m 地点。　一本。

10:00~10:10 3,845m 地点。　一本。

途中、老牛が放置されていた。

10:30 頃より晴れる。

10:55~11:00 3,720m 地点。　一本。

11:40　ムーゴンパ 到着。幕営。

夜中に中国側からの密輸団のカッツァル(ラバ)の首の鉦の音が響く。

********** 18 日目 **********

10/17「ムーゴンパ(3,705m) からチョクンパロ(3,030m)まで。」

水平距離　13km　標高差 -675m　行動時間　5 時間 30 分

7:10　フルグラ(日本で購入のフルーツ･グラノーラ+お湯で溶いたコンデンスミルク)を食べて出発。

(会計の中田隊員より金欠の恐れがあるの旨。この後数日間は、隊員はテント＋行動食　ポータはロッジ＋食い放題のダルバート・タルカリの逆転した環境となる。)　快晴。

8:05~8:15　ニレ(対岸)の手前。　一本。

このあたりから又、暑さが戻る。

9:10~9:20　チュレ。　一本。

10:30~10:40　ラマガオン。　一本。

11:05~11:30　ナキュ。　一本。

12:10~12:15　チョクンパロ手前の橋で一本。

12:40 チョクンパロ 到着。　ロッジの納屋の前の空き地に幕営。夕食は各自 α 米＋何か。

ロッジの食堂のラサ･ビールは Rs300 と高い。阿呆らしいので、10m 程下がった所にある、行きにも寄った茶屋で飲むことにする。ラサ･ビールは Rs150 である。飲んでいると、糸紡ぎ車を持ったバアさんがやってきて、私達が行ってきた谷でイエティを見たという話をしてくれた。

彼女の名前はソナムブーティ・ラマさん(61 歳)で、話によるとイエティはヤクが好物で、イエティは神様なので写真を撮っても写らないそうです。他にも 6 名の方が目撃していると言う。

今夜も短い時間だが、小雨となる。

********** 19 日目 **********

10/18「チョクンパロ(3,030m)からツムリン(2,385m)まで。」

水平距離　7km　標高差 -655m　行動時間　4 時間 10 分

7:50　フルグラを食べて出発。晴れ。

8:25~8:35 チャウリ･カルカ(2,950m)　一本。

9:35　シャール･コーラの吊り橋、通過。　快晴。

9:45~10:10　リンジャン(デポ地)　デポ品を回収。

11:05~11:15　一本。　とにかく暑い。

12:00　ツムリン 到着。　宿の庭先に幕営。(ポータはロッジ)　夕食は各自α米＋何か。

久々に服を洗濯して干す。

今晩は久々に晴れて、星空となる。

********** 20 日目 **********

10/19「ツムリン(2,385m)からフィリム(1,590m)まで。」

水平距離　7km　標高差 -1295m　行動時間　6 時間

7:00　今日もフルグラを食べて出発。快晴。

一気に下る。

7:30~735　吊り橋。一本。　既に暑くなり半袖シャツとなる。

これからきつい登り返し。

8:15　ウディル･コーラ出会いの見える所(2,330m)までくると漸く急登が終わる。

8:40　チャマール南峰が見える。

8:55　行きに崩落していた所は、石積みをして修復されていた。

生活道路であることを実感する。

9:50~10:00　サリ･コーラの吊り橋。　一本。

10:50~11:00　ロクパ。　一本。

この先、ゆるやかな下りの後、急坂を下りる。

12:00~12:10　マナスルとの分岐点。　一本。

12:50~13:00　落石注意の標識のある処を通過。

13:30~13:45　ニューエクレバッティ。　冷たい流水を浄水する。　暑い時には、冷たい水がうまい。

14:00　フィリム　到着。

先に到着したポータは、カンクロー(胡瓜)に塩をかけてうまそうに食べている。

たまらず、我々も食べる。

ロッジ泊。　やっと、テント生活が終わる。夕食は久々のダルバート・タルカリ。

16:00 頃より、曇る。

静かに眠ることが出来ると思っていたが、テハール祭(の牛の日)で、そこらじゅうに蝋燭を灯し、老若男女が狭い場所で夜中の 1:30 頃まで歌い踊りまくり、眠れない。思誠寮生であった中田氏、山崎は寮祭のファイヤーストームの上で寝ているようなものだと、笑いながら諦める。

宿でフクロウの子供を飼っており、渡部隊長はその可愛らしさにご満悦。

********** 21 日目 **********

10/20「フィリム(1,590m)からタトパニ(990m)まで。」

水平距離　14km　標高差 -1600m　行動時間　6 時間

7:10　最後のフルグラを食べて出発。快晴。

8:55~9:00　綺麗な町　ヒレィリィで一本。

9:45~9:55　ジャガット。　お茶。

11:30~11:30　ヤル･コーラ出会い。　一本。

12:10~12:30　茶屋。　一本。

13:30~14:00　ドバン。浄水。　ひたすら暑い。

14:50~15:00　タトパニ手前の吊り橋。　一本。

直ぐタトパニであるのは判っていたが、暑くてたまらず一本入れる。

15:15　タトパニ　到着。　ロッジ泊。

夕飯は最後の各自α米＋何か。

********** 22 日目 **********

10/21「タトパニ(990m)からソティー･コーラ(730m) ⇒バス⇒アルガハット(570m)まで。」

水平距離　15km　標高差 -260m　行動時間　6 時間

7:05　炒飯を食べて出発。快晴。曇りであったが、すぐに晴れる。
8:15~8:20 コーラル･ベシの吊り橋の先。　一本。
9:25~9:30　マチャコーラ。　お茶。　既に暑い。
10:30　ネパールの上高地に出る。この先、河原から登山道に入る所を無視して、河原の足跡を辿る。
　ビーチ･バレー･コートの跡となりその先は不通。近くに登山道に戻る道らしきがあり、放棄された畑の道に惑わされながら、150m 程の急登を強引に登る。(かなり、消耗する。)
10:40~10:45　漸く登山道に戻り、一本。
11:00　ラプ･ベシ手前の涼しい風の吹く吊り橋の手前の道が、木で塞がれている。
　そこを無視して歩いている住民が、我々に下の河原道を行けと手で合図する。
　そこで河原道を行くと､吊り橋の反対側まで急な工事道路となっていて､再び炎天下の中を喘いで登るはめになる。ところが、件の住民は涼しい吊り橋をゆうゆうと歩いているではないか｡(非常に腹が立つ｡)
13:20~13:35　ラプ･ベシ高校前。　浄水。
　この先、車道と徒歩の道が交錯し、後に車道のみとなり日陰の無いゴロゴロ道となる｡(行きにも通った道であるが、疲れの溜まった身にはこたえる｡)
14:15~14:20　一本。
14:35~14:50　お茶。
　この先中田隊員は､意地になってぐんぐん歩き出す､渡部隊長もこれに同行する｡山崎はやや遅れ気味｡
　テハールの祭りで着飾って優雅に道行く住民には、ザックを背負った外人が、必死の形相で急ぎ足なのに驚いた様子。
15:50~16:00　ソティ･コーラ
　2 時間以上前に着いていたポータと共にバスに乗り込み、アルガハットへ。
17:20　アルガハット 到着。
　今日は終日、快晴。暑さでヘトヘト。服は汗(塩)でベトベト。

********** 23 日目 **********

10/22　バスにて、「アルガハットからカトマンズまで｡」
　6:30　朝食抜きでバスに乗り込む。
　　乗り合いバスの為、超満員となり悪路を帰る。
　16:00　カトマンズ着。
　　お世話になったポータと別れる。
　16:15　グリーン･オーキッド G/H に泊まる。
　　レストラン｢ブルーベリー｣にて、下山祝い。
　　禁肉生活が続いたので、サーロイン定食(Rs900(渡部、山崎)を貪る。

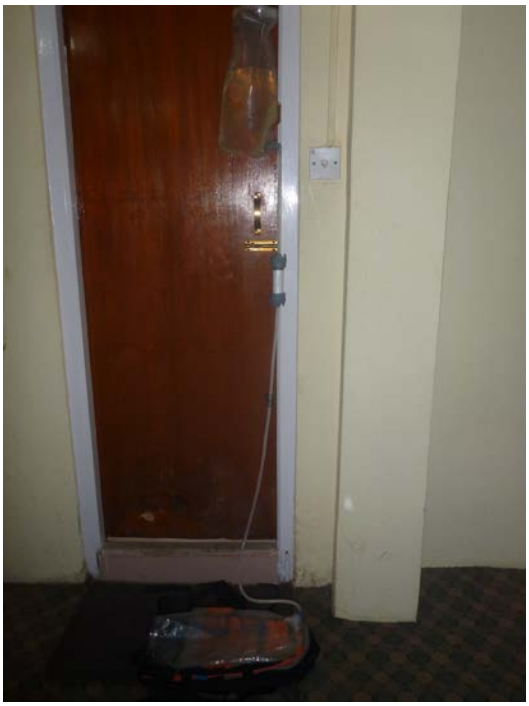
10/23　コスモトレックにて、テント干し等の装備の片付け。
　　コスモトレック支店にて、清算や預けておいたお金等を返してもらう。
　　今年は観測史上 4 番目にモンスーンが明けるのが遅かったことを知らされる。
　　大津氏に、隣のレストラン｢こてつ｣で昼食をご馳走になり、夜は大津氏宅に招待して頂く。
　　昭和山岳会の御二人方(澤田、山本さん)、芸人のナスビ氏と共に深夜まで歓談する。
10/24　コスモトレックにデポする医薬品の一覧を作成する。
　　マドウバン G/H にて米倉さんと再会。今晩のフライトで帰国するので、昼食を一緒にしてお別れ。
　　コスモトレックに医療品をデポする。
　　ダワ氏にボーダナート(入場料 Rs400)を案内してもらい、美味しいトウンバの店に連れてって頂く。
10/25.26　行動記録の整理。
　　以上で隊の記録は終了する。
⇒当初、帰国までの滞在費も予算に組み込まれていたが、予算オーバーで、カトマンズでの後半 12 日間の滞在費は追加の自費負担となり､毎日､昼は焼きソバ(Rs80)かカレー･ナン(Rs165)､夜はサンドイッチ(Rs200)＋日本から持参の粉末スープの貧困生活となる。

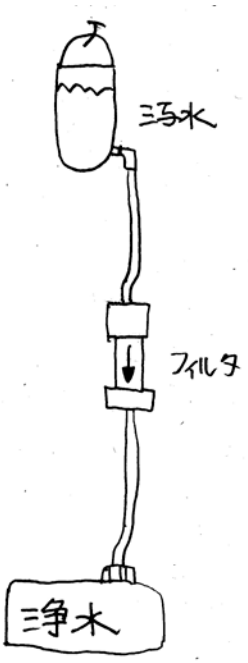
11/3 晩 カトマンズ発　11/4 昼　日本帰国

**********　装備について　**********

山崎記ス。

・ソーラ電池ランタン
　テント内で気軽に使えて便利。
・蛭・ダニ・蚊などの虫対策の薬品を複数用意したが、今回(秋)は虫害は無かった。
　一方、蛭用の薬品「ヒルノックス」という液体の薬品が大量に液漏れし、異臭・手のかぶれ・眼の痛みを長引かせた。液体薬品の携行には今後、十分な配慮は必要である。
・浄水器(platypus)はとても役にたった。但し、山行に入ってから初めて使用した処、処理時間が異常に長くてあせる。やはり、どんなに簡単な仕組みの物でも、事前確認が必要である。
⇒日本に持ち帰り、綺麗な水で洗浄し直したが、処理時間の劇的な改善は見られない。今後使用するには、新たなフィルタを購入することが好ましいと考える。





・尾篭な話であるが便所で大きい方をした時、紙を使わずに以下のポータブル・ウォッシュレット(商品名：ポリ洗浄ビン、隊俗称：肛門洗浄器、ホームセンターで安価に入手可)を今回、隊長の薦めで使用した。(紙に対する嫌悪、環境保護の観点)
容器の容量、ノズルの太さ、角度は個人の趣味ということで、興味のある方は個人的に質問を…

渡部隊長	中田隊員	山崎隊員
標準型?	和(ネ)式と洋式で使い分	高速水流ピンポイント型

********** 会計報告 **********

中田氏より。

2017 年スリンギ・ヒマール第 2 次偵察会計報告

予算	
渡部航空運賃	¥118,550
中田航空運賃	¥118,550
山崎航空運賃	¥118,550
小川勝山岳基金助成金	¥300,000
高橋雄治さんカンパ	¥20,000
渡部個人負担金	¥300,000
中田個人負担金	¥300,000
山崎個人負担金	¥300,000
合計	¥1,575,650

支出		
渡部航空運賃		¥118,550
中田航空運賃		¥118,550
山崎航空運賃		¥118,550
コスモトレック支払い		¥365,400
交通費		¥31,200
カトマンズ滞在費		¥51,250
装備費		¥29,800
トレッキング費		¥202,550
人件費（ポーター）		¥521,500
その他		¥18,300
合計		¥1,575,650

今回の予算では偵察後のカトマンズ滞在費は予算がなくなり個人負担となりました。
その分は上記には計上していません。大体一人 176 ドルの宿泊費がかかっています。
予算がオーバーしたのはポーター費が一人 1,800 ルピーと高めとなり、
ロッジ費用がカトマンズ市内滞在とほぼ同額かかっていることによります。

********** 謝辞 **********

信州大学学士山岳会小川勝山岳基金助成金より、一人当たり 10 万円の助成をして頂きました。ありがとうございました。

新谷先生には、多くの医薬品の支援して頂きました。隊員の風邪症状(鼻水、痰の詰まり)の緩和やポータの発熱対応等に役立ちました。ありがとうございました。

********** コスモトレックにデポした医療品 一覧 **********

ダイアモック	200 錠	ムコソルバン	56 錠
デカトロン	30 錠	PL 顆粒	64 包
ロキソニン	44 錠	メジコン	69 錠
アダラート 10mg	2 錠	グロアミン	33 包
アダラート 5mg	8 錠	トランサミン	2 錠
ラシックス	10 錠	レバミビド	24 錠

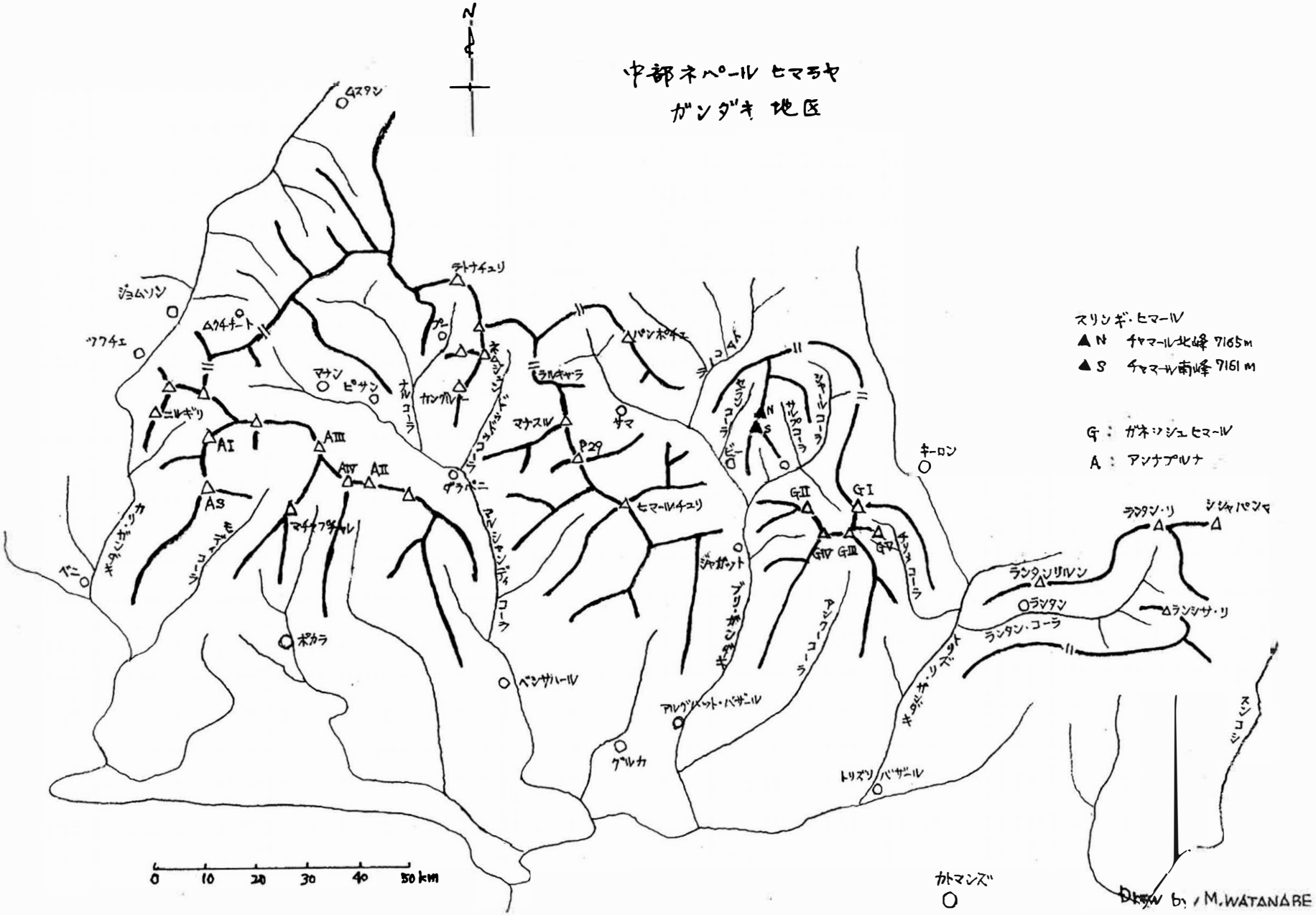
バファリン A	50 錠
セフゾン	50 錠
クラビット	41 錠
タミフル	20 錠
ラックビー	40 包
ナウゼリン	40 錠
ロペミン	40 錠
オスマイ	100 錠
フラジール	63 錠
リンデロン VG	5 本
リンデロン点眼	5 本
コルゲンコーワ	6 錠

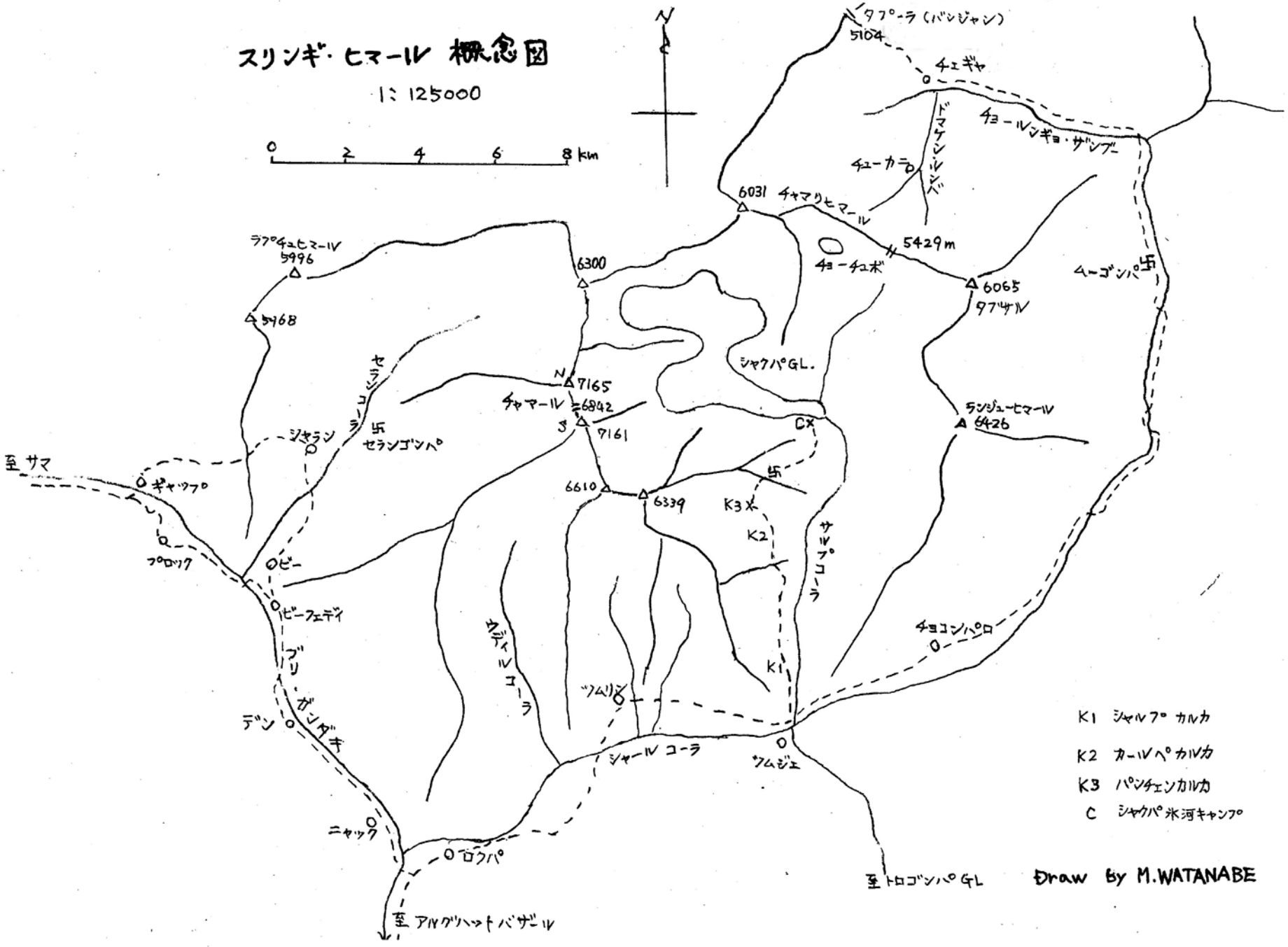
熱さまシート	5 枚
消炎剤(固形)	1 個
消炎剤(ｽﾌﾟﾚ)	1 本
消炎剤(シート)	1 枚
虫かゆみ止め	2 本
キシロ A(靴擦)	1 本

イソジン	2 本

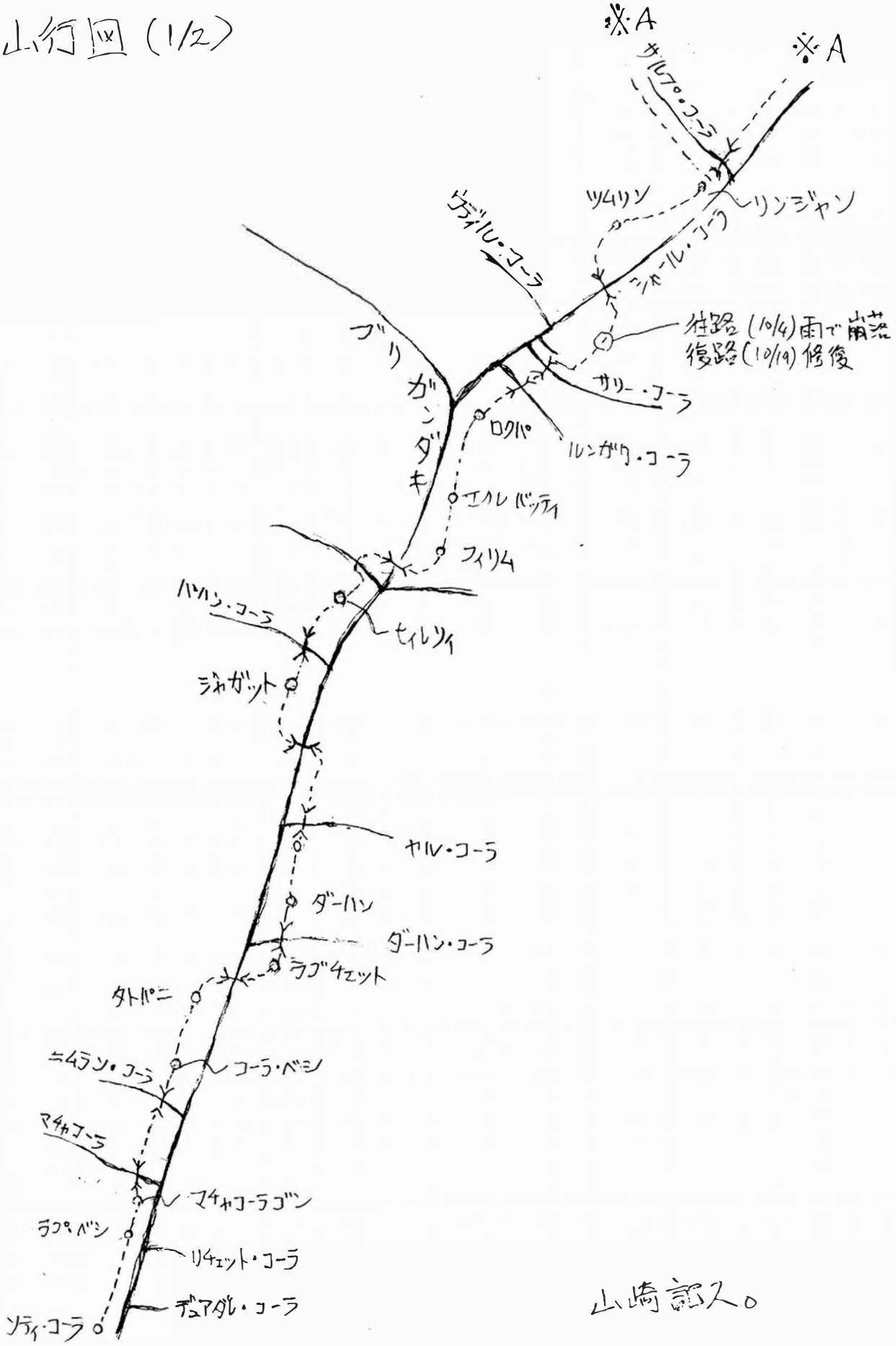
綿棒	50 本
テーピング 15 幅	1 巻
テーピング 35 幅	1 巻
包帯	3 巻
油紙	5 枚
ガーゼ	3 袋
カットバン	大小 40 枚
絆創膏	1 巻
包帯止め	4 個

はさみ	2 丁
ピンセット	2 丁
体温計	1 個
刺抜き	1 個
ﾎﾟｲｽﾞﾝﾘﾑｰﾊﾞ	1 個


中部ネパール ヒマラヤ
ガンダキ 地区
N
ムスタン
ジョムソン
ツクチェ
ニルギリ
AI
AS
AIII
AIV
AII
マチャプチャレ
ポカラ
ベニ
ガンダキ・リカ
ジーコーラ
マナン
ピサン
ナルコーラ
ガンガルー
ラトナチュリ
ネパジャンディ
ラルキャラ
マナスル
P29
サマ
ダラパニ
マルシャンディコーラ
ヒマールチュリ
ベンサハール
グルカ
アルグリズット・バザール
ジャガット
ブリ・ガンダキ
ラーコーラ
バンポチェ
ラーコーラ
ビー
サンポコーラ
ジャールコーラ
N
S
GII
GI
GIV
GIII
GV
チリメコーラ
キーロン
トリズリ・バザール
キダンガ・リバット
ランタン・リ
シシャパンマ
ランタン・リルン
ランタン
ランシサ・リ
ランタン・コーラ
スンコシ
カトマンズ
スリンギ・ヒマール
▲N チャマール北峰 7165m
▲S チャマール南峰 7161m
G：ガネッシュヒマール
A：アンナプルナ
0 10 20 30 40 50 km
Drawn by M.WATANABE

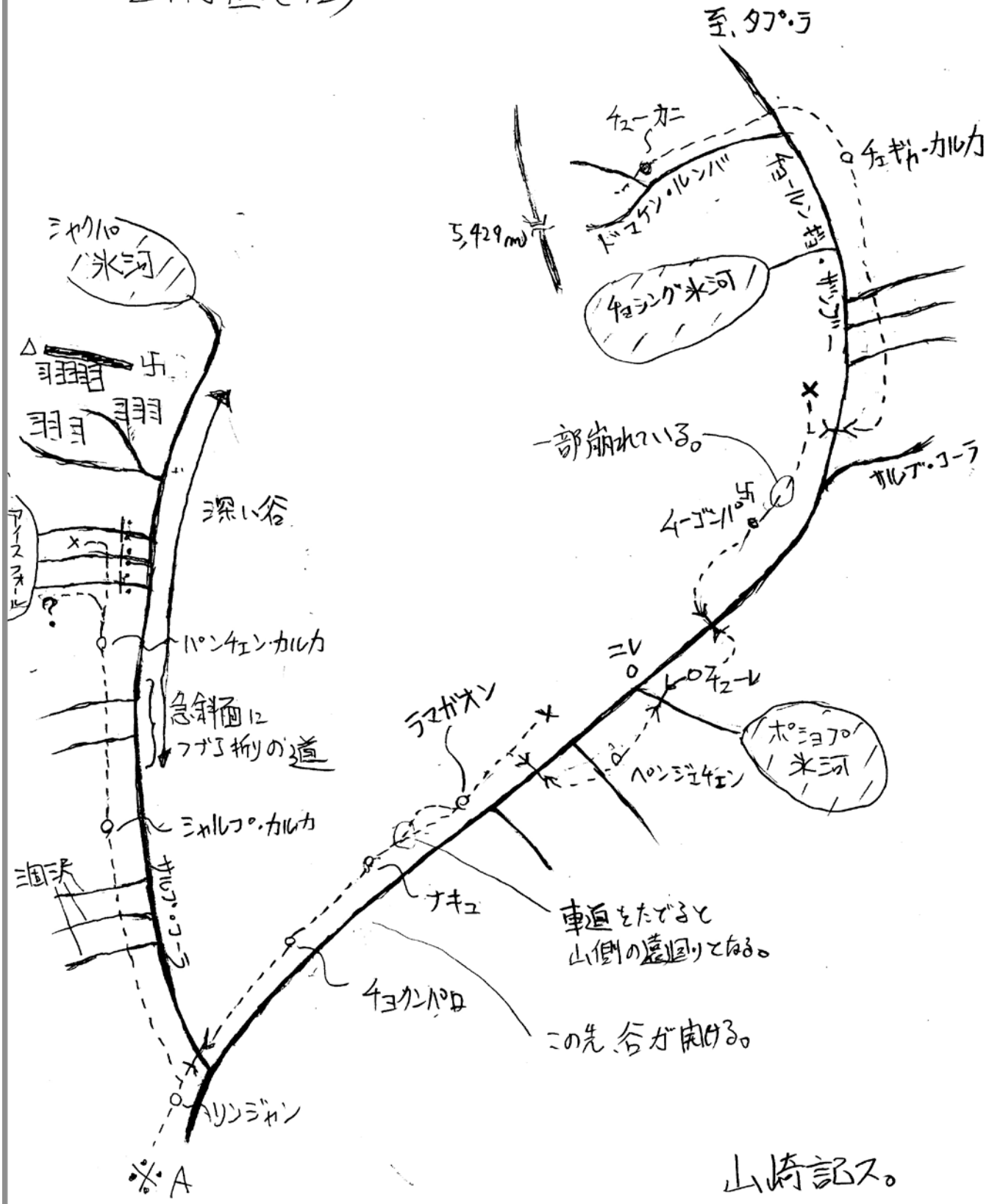

スリンギ・ヒマール 概念図
1:125000
0 2 4 6 8 km
N
タプーラ（バンジャン）
5104
チェギャ
チョールンギョ・ザンブー
チューカラ
6031
チャマリヒマール
5429m
ギョーチュボ
6065
ラングサル
ムーゴンパ
ラプチュヒマール
5996
5968
6300
シャクパGL.
N 7165
チャマール 6842
S 7161
ランジューヒマール
6426
セランコーラ
シャラン
セランゴンパ
至サマ
ギャップ
プロック
ビー
ビーフェディ
ブリ・ガンダキ
デン
6610
6339
K3
K2
K1
C
サルプコーラ
チョコンパロ
ウディルコーラ
ツムリン
シャール コーラ
ツムジェ
ニャック
ロクパ
至アルグハットバザール
至トロゴンパGL
K1 シャルプ カルカ
K2 カールペ カルカ
K3 パンチェンカルカ
C シャクパ氷河キャンプ
Draw by M.WATANABE

山行図（1/2）


※A
※A
ナルプ・コーラ
ツムリン
リンジャン
ゲディル・コーラ
シャール・コーラ
往路（10/4）雨で崩落
復路（10/19）修復
ブリガンダキ
サリー・コーラ
ロクパ
ルンガリ・コーラ
エクレバッティ
フィリム
ハンハン・コーラ
セィルリィ
ラネガット
ヤル・コーラ
ダーハン
ダーハン・コーラ
ラブチェット
タトパニ
ニムラン・コーラ
コーラ・ベシ
マチャコーラ
マチャコーラゴン
ラプチベシ
リチェット・コーラ
デュアダル・コーラ
ソティ・コーラ

山崎記入。

山行図(2/2)


至、タプ・ラ
チューカニ
チェギカ・カルカ
ドマチン・ルンバ
ホーリン谷・キンジー
5,429m
チョシング氷河
シャクパ氷河
一部崩れている。
ムーゴンパ
ガルブ・コーラ
深い谷
アイスフォール
パンチェン・カルカ
急斜面につづら折りの道
ニレ
チュール
ポショプ氷河
ペンジェチェン
ラマガオン
シャルコ・カルカ
渓流
キブ・コーラ
ナキュ
車道をたどると山側の遠回りとなる。
チョクンパ
この先、谷が開ける。
ハリンジャン
※A

山崎記入。